

## はじめに

---

本書は政治学を初めて学ぶ人向けに書かれたテキストである。政治学って、そもそも何のために学ぶのだろうか。

政治学の教員をやっていると「政治学って政治家や公務員になりたい人が勉強する学問？」と聞かれることがある。たしかに職業上で政治に直接関わることになる政治家や公務員志望の人は、政治学を学んでおいても損はないだろう。

しかし、政治学を学ばなければ政治家や公務員になれないわけではない。実際、多くの政治家や公務員は、政治学の内容を十分には理解していない。

「すべての国民が主権者であるのが民主主義。だから、誰もが否応なしに政治を学ぶべきだ」。こういった説明がなされることも多い。中学や高校で主権者教育の一環として政治について何らかの勉強をした経験がある人は多いだろう。たしかに民主主義の下では、すべての成人が選挙権を有することになるので、多くの人に政治の仕組みを知っておいてほしい面はある。

しかし、実際は選挙に行かない人、政治に極力関わろうとしない人も多い。政治に背を向ける自由も権利として保障されている以上、頭ごなしに「大事だから政治を学びなさい！」と言っても、きっと心には響かないだろう。

「将来の仕事に役立つから」「主権者としての務めだから」が、ある程度までは政治学を学ぶ理由になることは否定しない。しかし、本書ではそれらとは別の理由から、政治学を学ぶことをおススメしたいと思っている。

政治学はおもしろい！ おもしろいからあなたにもぜひ学んでほしい！ 本書が強調したいのは、このシンプルな理由の方だ。

なぜ「政治学はおもしろい」と言えるのか。それは私たちが政治のことをよく知らないからである。

多くの人にとって、政治の話題は身近に感じない「遠い世界のお話」のように映る。あるいは「汚職にまみれた薄汚れた世界」といった否定的なイメージで捉えられる。そんな縁遠くネガティブな印象がある政治よりも、家族、友人、恋愛、スポーツ、文化、芸能、ビジネスの方が身近に感じるし、興味をも

ちやすい。どうせ学ぶのであれば、政治なんかよりも、そういった自分の生活に関係しそうな事柄の方を学びたい。そう思っている人はきっと多いことだろう。

しかし、私たちはよく知らない対象にこそ、誤解や偏見をもちやすい。例えば、政治に関しては「日本では公務員の数が多すぎる」「政治家はいつも大企業の言いなりになっている」「人々は偏った政治報道にすぐ洗脳される」などの俗説が、信ぴょう性のある意見として広く世間で受容されている。しかし、政治学をしっかり学べば、それらの俗説はいずれも事実に基づかない誤った見解、もしくは複雑な現実を過度に単純化した偏った見方にすぎないことがわかる。

学問をやっている「おもしろい！」と思う瞬間は、明確な根拠に基づいた学説によって自分のなかの誤解や偏見が打ち破られるときに訪れる。今まで想像もしなかった事柄について知ったとき、今まで「常識」だと思っていた事柄がひっくり返られるとき、知的好奇心は強く刺激される。自分のなかの視野が一気に開けていく感覚がある。知的に興奮してワクワクする。学問の醍醐味とは、まさにコレである。

私たちは政治についてよく知らない。よく知らないからこそ、政治について様々な誤解や偏見をもっている。政治学にはそういった政治に関する誤解や偏見を打ち破る痛快さがある。だから、政治学はおもしろいのだ。

そして、どんな学問であれ、ある学問のおもしろさを知った者は強い。未知の物事に果敢にチャレンジする術、誤解や偏見から自由になる術、知的営みを楽しみながらやり抜く術を知っているからだ。そのような術はどのような人生を過ごすことになったとしても役に立つ。政治学をおもしろがりながら学ぶことで、結果的にそうした知的強靭さを身につけることができる。だからこそ、あなたにも政治学を学ぶことをおすすめしたい。

本書では、政治学を初めて学ぶあなたに、政治について考えることのおもしろさを知ってもらうことを重視している。本書を通じて、みなさんに理解してほしいポイントは以下の3つに集約できる。

- (1) 現代政治の実態をポリティカル・サイエンスの立場から分析した諸研究の成果。なお、ポリティカル・サイエンスの詳細な説明は第1章の記述

に譲るが、一言でいえば政治現象を科学的に分析するアプローチのことである。

- (2) 政治は国や時代によって大きく変化すること。私たちの選択によって政治を変えることができること。実際、日本の政治もこの30年間で大きく変化したこと。
- (3) 政治は私たちの経済社会と深く関わっていること。政治によって経済社会は変わるし、経済社会によって政治も変わること。

本書では、政治学のおもしろさを知ってもらうための工夫として、巻末に「政治学のバラエティ——多様なアプローチへの誘い」と題した6本のコラム、および「政治学をおもしろく学ぶためのおススメ文献ガイド」を配置した。それらは本書を通読したうえでさらなる学習に役立ててほしい。

各章やコラムの内容は、それぞれのテーマについて第一線で研究されている先生方に依頼して書いていただいた。いずれの執筆者も、政治学のおもしろさをよく知っている信頼できる方たちばかりである。大変多忙なか、執筆作業を担っていただいた先生方には深く感謝申し上げる次第である。

本書の編集過程では、法律文化社の田麻純子社長と八木達也氏に多大なるご助力とご配慮をいただいた。また企画立案の段階では、元・法律文化社の上田哲平氏にも一方ならぬご支援をいただいた。学問のおもしろさをよく知る3名の有能な編集者の助けなしには、本書がこのような形で日の目をみることはきつとなかったであろう。心より感謝申し上げたい。

2020年6月

編者 坂本 治也  
石橋章市朗